

令和3年度 福島区地域ケア推進会議で 検討された地域課題について

資料7

介護保険制度では、地域包括支援センターが開催する「地域ケア会議」で個別支援の内容検討を積み重ね、その中から見えてきた地域課題を区（または市）の「地域ケア推進会議」において検討するしくみとなっている。

令和3年度の福島区地域ケア推進会議では、地域ケア会議から見えてきた課題とともに、野田地域でのグループワークによる抽出課題についても報告され、以下の2項目を地域課題とした。

● 課題1

認知症高齢者の支援ケースの増加、権利擁護の支援ニーズの増加

認知症高齢者の支援ケースが増加しており、認知症の進行に伴い、あんしんさぼーとや成年後見制度などの利用について検討するケースが増えている。

（解決に向けた取り組み）

- ・ 今後、自宅に帰れず保護されるケースや、不安のため頻繁に近隣住戸を訪ねて回るケース等の増加に対応するため、地域での見守り体制の構築が必要。

● 課題2

コロナ禍での高齢者の運動機能の低下、交流機会の減少

コロナ禍で閉じこもりがちになり、足腰の筋力が低下する高齢者が増えている。また高齢者食事サービスなどの事業が中止され、交流の場が減っている。

（解決に向けた取り組み）

- ・ コロナ感染予防に留意しながらではあるが、集合住宅での出張相談会に楽しめるプログラムを取り入れ、誰でも気軽に参加できる相談会を企画する。さらに参加者同士が交流できるスペースづくりを検討する。
- ・ 高齢者の早期支援につなげるため、高齢者が集う場所をリサーチしたうえで訪問し、気になる高齢者がいた場合には地域包括支援センターに連絡してもらえるよう連携先の拡大を図る。

- その他

- ・野田地域で「家風呂がない住宅が多く、入浴に困っている」という意見が出たが、さらなる実態把握に努める。
- ・また、野田地域で大きな火災の直後に課題抽出を行ったこともあって、「道幅が狭く、火事や地震が心配」という意見があった。区の防災担当と課題を共有し、区民の防災意識向上や防災活動の支援を図る。